

富山県女性の飲酒状況について

富山市民病院神経科精神科 草野 亮 山野 俊一
富山保健所 中川 秀幸 柴 美喜子

はじめに

女性と酒とのかかわりは、歴史的にふるい。今から約 2,000年前、農耕文化の始まった弥生時代に、わが国の酒の起源がもとめられるが、以来酒づくりは女の仕事とされ、口の中で米を噛み噛みしながら酒が醸されてきた。日本の酒は、お神酒として始まり、荒ぶる神に供されて、天変地異が鎮められた話が神話に多いが、その際に女性がともに登場する。さらに時代がくだって、来客や男性に食食が饗されるようになり、女性はその脇役へと変化していく。しかし、第二次大戦以後、女性の復権とともに、主役となり、男性とならんで飲酒を楽しむようになった。このように、酒と女性とのかかわりは、歴史とともに、めまぐるしく変転してきた。

現在の女性の飲酒状況には、これまでの歴史の名残りが包蔵されている。表日本と比べ、まだ因襲のつよく残っている富山県の女性の飲酒状況には、その感も一層深い。

前回に、富山県の一般成人男性の飲酒実態を報告し、富山県の飲酒について考察したが¹⁾²⁾、今回は、女性に焦点をあてて、当県の女性の飲酒について考えてみたい。

調査方法と調査対象

調査方法は、額田を班長とする文部省科学研究費総合研究「アルコール飲料の社会医学的研究」³⁾⁴⁾(1972)で行われたアンケート方式(問1より問13まで)によったが、アルコール中毒に関する意識調査の問14より問17は、著者ら独自の質問を追加した。参考までに、その

質問文を、末尾に(資料)としてかかげた。

調査対象は、富山保健所管内(富山市、大沢野町、大山町)の一般成人女性 462名である。その年齢分布、学歴別分布および職業別分布を、表1～3にそれぞれしめた。

表1 年齢別分布

年齢	例数	%
10歳代	9	1.9
20歳代	89	19.3
30歳代	140	30.3
40歳代	123	26.6
50歳代	72	15.6
60歳代	5	1.1
不明	24	5.2
計	462	100.0

表2 学歴別分布

学歴	例数	%
大学卒	46	10.0
高校卒	254	55.0
中学卒	75	16.2
小学卒	8	1.7
不明	79	17.1
計	462	100.0

表3 職業別分布

職業	例数	%
勤務労働者	139	35.4
無職(主婦を含む)	136	34.6
自営業	57	14.5
農林業	21	5.3
自由業	15	3.8
日雇労働者	2	0.5
その他	23	5.9
計	393	100.0

表4 初飲年齢

年齢	富山	全国
～15歳	4.1	3.3
16～17歳	4.1	3.8
18～19歳	35.7	14.9
20～21歳	37.8	27.1
22～23歳	4.7	8.1
24～25歳	6.1	9.2
26～27歳	0.7	2.7
28歳以上	6.8	3.7

・ P < .05 ・ ・ P < .01 %

なお、富山県と全国平均(額田⁴⁾)とを比較する形で論述するが、そのデータの統計処理は χ^2 検定を用いた。

調査結果

まず、初飲年齢から紹介しよう。そのようすを表4にしめた。飲酒の初体験が15才以下であったものが4.1%で、16～17才であったものが4.1%であった。

それらの値は、全国平均(以下、全国と略す)との間に有意差がみられなかった。ところが、18～19才と20～21才で高いピークをしめし、それぞれ35.7%と37.8%をしめした。全国との違いは、成人直前の18～19才で、富山の方が有意に高かったことである。そして、22才以上の遅い初飲体験は、軒なみに低いことであった。初体験の際の飲酒のきっかけをみる

表5 飲酒のきっかけ

飲酒のきっかけ	富山	全国
お祝・行事	44.8**	30.7
つきあい	37.6**	46.7
なんとなく	8.1*	11.8
仕事上	6.0**	2.4
親のすすめ	0.9	2.7
一人前になったので	0.9	—

と、表5のごとく、お祝・行事が約半数近くの44.8%をしめして、第1位で、全国のそれが30.7%をしめして第2位であることが、大きな違いをみせていた。つきあいは、37.6%で第2位をしめしたが、全国の46.7%が第1位であることと比べ、これも全国との違いであった。ちなみに、お祝・行事の44.8%という数字は、表4でしめした初飲年齢の19才以下の数字 $35.7+4.1+4.1=43.9\%$ にかなり近い値となっている。それらのことは、当県がわが国の中でも、比較的日本的伝統の残る地域であり、冠婚葬祭がさかんであることと関係があるように思われる。すなわち、その際には、お酒がつきもので、未成年者の飲酒もこのときのみは、大目にみられる風習があるからである¹⁾。成人前後の18～21才に、初体験者が集中して多く、22才以後の遅い初飲者が全国と比べて少ないという、もう一つの特徴は、「お酒をいただく」ということが、一人前(大人)になったという¹⁾しるしでもある、この地方の風習によるところが大きいであろう。

このような初飲体験を経て、成人した当県の女性は、その後どのような飲酒の仕方をしているのであろうか。表6に飲酒頻度をしめ

したが、毎日飲むものは3.0%で、全国との間

表6 飲酒頻度

頻度	富山	全国
毎日飲む	3.0	2.9
週4～6日飲む	3.2**	1.3
週1～3日飲む	16.0**	6.3
ほとんど飲まない	53.7**	35.5
以前飲んだがやめた	2.2	1.3
飲まない	21.9**	52.7
計	100.0	100.0

に差がなく、週4～6日飲むものと週1～3日飲むものは、それぞれ3.2%および16.0%をしめし、全国より有意に多い。また、ほとんど飲まないものも53.7%と多く、これも全国より有意に多い。一方、ぜんぜん飲まないものは21.9%に過ぎず、この値は全国の52.7%と比べると、その半分以下とかなり少ない。それらのデータから、富山の女性は、全国平均より飲酒頻度が高いといえよう。飲酒頻度と年齢との関係をみたものが表7であるが、

表7 飲酒頻度と年齢との関係

年齢	頻度	毎日飲む	週4～6日飲む	週1～3日飲む	ほとんども飲まない	やめた	のまない	計
20歳代	2.3	1.1	11.2	65.2	4.5	15.7	100.0	
30歳代	1.4	2.9	24.3	42.1	1.4	27.9	100.0	
40歳代	4.9	5.7	17.1	52.8	2.4	17.1	100.0	
50歳代	5.6	4.2	8.3	54.2	1.4	26.3	100.0	
60歳代	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	20.0	100.0	
平均	3.0	3.2	16.0	53.7	2.2	21.9	100.0	

表8 飲酒頻度と学歴

学歴	頻度	毎日飲む	週4～6日飲む	週1～3日飲む	ほとんども飲まない	やめた	のまない	計
大学卒	0.0	2.2	19.6	58.7	2.2	17.3	100.0	
高校卒	3.1	3.1	14.6	58.3	2.8	18.1	100.0	
中学卒	2.7	2.7	16.0	50.6	2.7	25.3	100.0	
小学校卒	0.0	0.0	0.0	87.5	0.0	12.5	100.0	

40才代と50才代の中高年者に高頻度飲酒の傾向がみられた。飲酒頻度と学歴との関係は表

8のごとくで、高校卒と中学卒に高頻度の傾向がみられた。なお、60才代と小学校卒（旧制度）とが、ほぼ対応すると思われるが、それらの人達は、飲酒頻度が極端に低かった。

表9 飲酒の理由

飲酒の理由	富山	全国
つきあい	42.3 **	31.6
たのしむ	20.6	21.1
疲れをなおす	10.5 **	21.4
よくねむるため	4.9 **	12.8
食欲をます	1.5 **	6.6
元気を出す	1.0	3.0
苦痛をやわらげる	0.8	1.0

飲酒の理由をみると、表9のごとく、つきあいが全体の約半数近くの42.3%で第1位をしめし、たのしむが全体の約20%の20.6%で第2位、つかれをなおすための全体の1割の10.5%で第3位であった。それらを全国と比較すると、つきあい酒が多く、つかれなおしの一ぱいが少ない。当県の県民性として、律義で、つきあいを大事にするということがしばしば指摘されているが、飲酒の面でもそれが現われている。一方、よくねむるためや食欲を増すための飲酒など、心身の不調と関係するような不健全な飲酒態度は、当県の女性には少なかった。参考までに、飲酒頻度と飲酒理由との関係をみたが、表10のごとく、高頻度飲酒傾向群はたのしむ酒と相関があり、低頻度

表10 飲酒頻度と飲酒理由

理由	頻度	毎日	4-6	1-3	ほとんど
つきあい		7.1	25.0	29.5	60.7
たのしむ		43.0	45.0	34.1	16.1
つかれなおし		28.6	20.0	15.9	9.0
よくねむる		7.1	5.0	6.8	5.2
食欲		7.1	0.0	5.7	0.0
元気を出す		0.0	0.0	2.3	0.9
苦痛をやわらげる		0.0	0.0	2.3	0.5
その他		7.1	5.0	3.4	7.6
計		100.0	100.0	100.0	100.0

飲酒傾向群はつきあい酒と相関があることがわかる。また、つかれなおしの一ぱいが、高

頻度飲酒者に多い傾向があるということも特筆すべきであろう。

表11 飲酒場所

場所	富山	全国
自宅	67.7 **	46.7
のみや	20.1 **	13.3
友人宅	12.2 **	40.0

飲酒場所は、表11のように、自宅が67.7%と

もっとも多く、ついでのみやの20.1%、友人宅の12.2%で、全国と比べると、自宅のみやで高く、友人宅ではかなり低かった。のみやが高いのは、つきあい酒が多いためであろうし、友人宅が少ないのは、当県民の閉鎖的傾向や他人の迷惑を考慮する傾向からくるものではないかと考えられる。飲酒頻度と飲酒場所との関係は、表12のごとく、

表12 飲酒頻度と飲酒場所

場所	頻度	毎日	4-6	1-3	ほとんど
自宅		78.6	88.2	73.7	46.3
のみや		7.1	5.9	19.7	16.6
友人宅		14.3	5.9	5.3	11.2
その他		0.0	0.0	1.3	25.9
計		100.0	100.0	100.0	100.0

高頻度飲酒傾向群ほど自宅が多く、低頻度飲酒群ではのみやが多くなっていく傾向がみられた。後者は、つきあい酒と関係があるであろう。

晩酌は、日本の男性の代表的な飲酒形態といわれているが、女性ではどのようであろうか。われわれの調査では富山の女性飲酒者の

表13 晩酌

飲酒量	富山	全国
1合以下	83.2	79.4
1-2合	11.5	13.5
2-3合	4.4	4.3
3-4合	0.9	—
4-5合	0.0	—
5合以上	0.0	—
計	100.0	97.2

36.2%が晩酌を楽しんでいるが、その飲酒量は表13のとおりである。すなわち、晩酌者の大部分の83.2%が、日本酒に換算して、1合以下であるが、11.5%の人

達が1-2合飲み、4.4%の人達が2-3合、0.9%の人達が3-4合飲んでいた。4合以上

の大量飲酒者は、この調査ではみられなかった。それらの数字は、全国との間に有意差を

表14 飲酒頻度と晩酌量

晩酌量	頻度	毎日	4-6	1-3	ほとんど
1合以下		54.5	85.7	74.4	74.2
1-2合		18.2	14.3	16.3	3.4
2-3合		27.3	0.0	2.3	1.7
3-4合		0.0	0.0	2.3	0.0
4-5合		0.0	0.0	0.0	0.0
5合以上		0.0	0.0	0.0	0.0
その他		0.0	0.0	4.7	20.7
計		100.0	100.0	100.0	100.0

みとめられなかった。飲酒頻度と晩酌量との関係は、表14のごとく、高頻度飲酒群に2-3合のむ多量飲酒者が多くみられ、低頻度飲酒傾向群に1合以下の少量飲酒者が多い傾向がみられた。

表15 酒席への出席

	富山	全国
必ず出席	5.1**	1.6
普通に出席	71.2	68.6
さける	10.9**	15.3
ことわる	5.6**	2.6
機会なし	7.2*	11.9
計	100.0	100.0

酒席への出席については、表15のごとく、必ず出席するが5.1%、普通に出席するが71.2%であり、必ず出席が全国の1.6%より有意に高く、当県民の律義な性格傾向が、ここにも顔をのぞかせていた。一方、さけるの10.9%は全国の15.3%より低く、ことわるの5.6%は全国の2.6%より高かったのは、はっきりとした意志表示をする当県の女性の他の一面もうかがわれておもしろい。

表16 宴会

飲酒量	富山	全国
1合以下	61.7	61.2
1-2合	24.2	18.4
2-3合	9.6	10.7
3-4合	3.3	2.4
4-5合	0.8	2.0
5合以上	0.4	—
計	100.0	94.7

宴会での飲酒量は、表16のごとく、全体の半数強の61.7%の人達が1合以下で、24.2%が1-2合、9.6%が2-3合、3.3%が3-4合、0.8

%が4-5合飲み、0.4%の人達が5合以上のむ女酒豪であった。しかし、全国との間には有意差がみられなかった。飲酒頻度と飲酒量

表17 飲酒頻度と宴会酒量

酒量	頻度	毎日	4-6	1-3	ほとんど
1合以下		10.0	23.1	45.5	69.5
1-2合		10.0	61.5	27.3	20.1
2-3合		60.0	7.7	14.5	4.9
3-4合		10.0	0.0	7.3	1.8
4-5合		0.0	7.7	0.0	0.0
5合以上		0.0	0.0	1.8	0.0
その他		10.0	0.0	3.6	3.7
計		100.0	100.0	100.0	100.0

との関係は、表17にしめしたが、やはり、高頻度飲酒傾向群に飲酒量が多く、低頻度飲酒群ほど飲酒量が低下していく傾向がみられた。

表18 酒の上の失敗

	富山	全国
他人に迷惑をかけた	1.9	3.8
怪我をした	0.6	0.4
喧嘩をした	0.3	0.0
交通事故	0.0	0.8
仕事上のミス	0.0	0.4

酒の上の失敗については、表18にかかげたごとくで、他人に迷惑をかけたことがあるものが、飲酒者総数の1.9%で、けんかをしたことがあるものが0.3%、けがは0.6%で、いずれも全国との間に有意差はみられなかった。

ところで、酒は人生に必要なかという問いにたいして、表19のごとく、必要と答えたもの

表19 酒は人生に必要なか

	富山	全国
必要	13.7**	8.3
時に必要	68.8**	47.8
不必要	3.8**	28.1
わからない	13.7	15.8
計	100.0	100.0

が13.7%で、時に必要としたものが68.8%であり、いずれも全国より高い。逆に不必要と答えたものが3.8%に過ぎず、これは全国の28.1%と比べるとその約半分著しく低い。それらの数字は、当県が、わが国のなかでも、有数の飲酒文化圏に

属することをしめすものであろう。

さて、観点を变えて、職業別によって、どのような差異があるのかについて、みて

表20 飲酒者の職業別比較

職 業	飲酒者数	%	全対象数
日雇労働者	2	100.0	2
勤務労働者	119	85.6	139
農 林 業	17	81.0	21
無 職	101	74.3	136
自 由 業	11	73.3	15
自 営 業	38	66.7	57
そ の 他	20	87.0	23
計	308	78.4	393

みよう。表20に、そのようすをかかげたが、日雇労働者、勤務労働者、農林業従事者などの肉体的ないし精神的労働に従事するものに、飲酒者数が多い傾向があることがわかる。それに対して、自営業者に比較的少ない。無職（主婦を含む）や自由業は、それらの中間に位した。しかし、興味あることは、週4日以上飲酒する高頻度飲酒者に関する調査であ

表21 a 高頻度飲酒者の職業別比較(I)
(週4日以上)

職 業	高頻度者数	%	全対象数
自 営 業	9	15.8	57
自 由 業	1	6.7	15
無 職	8	5.9	136
勤務労働者	3	2.2	139
農 林 業	0	0.0	21
日雇労働者	0	0.0	2
そ の 他	2	8.7	23
計	23	5.9	393

る。表21 aのごとく、自営業が15.8%、自由業が6.7%、無職が5.9%と比較的高く、労働者は低く、先の順位と逆転していることであった。高頻度飲酒者は、比較的自由的な時間を持ち、経済的にもゆとりのある階層に多い傾向がうかがわれる。さらに、それを飲酒者数あたりの高頻度飲酒者に換算してみたのが、表21 bで、自営業が実に23.7%と群を抜いて高く、ついで自由業の9.1%、無職の7.9%で

表21 b 高頻度飲酒者の職業別比較(II)
(週4日以上)

職 業	高頻度者数	%	飲酒者数
自 営 業	9	23.7	38
自 由 業	1	9.1	11
無 職	8	7.9	101
勤務労働者	3	2.5	119
農 林 業	0	0	17
日雇労働者	0	0	2
そ の 他	2	10.0	20
計	23	7.5	308

あった。高頻度飲酒者の割合が高いということは、アルコール中毒の危険性にもそれだけさらされているということができよう。ちなみに、最近の女性アルコール中毒者は、勤務労働者よりも、自由な時間をもつ階層に多いという報告がみられる⁶⁾。

最後に、アルコール中毒に関する意識調査について述べよう。この調査は、著者ら独自の調査であるため、全国との比較ができないが、われわれが先に行った一般成人男性のそれとを比較しながら述べる。

当県の女性は、アルコール中毒者を、どのように考えているのであろうか。表22にかか

表22 アルコール中毒とは

	女 性		男 性	
	例 数	%	例 数	%
酒をやめられぬ人	256	54.5*	241	47.8
酒癖の悪い人	68	14.5	55	10.9
社会の落伍者	47	10.0	66	13.1
精神病	44	9.4**	83	16.5
内臓を悪くした人	27	5.8	27	5.4
毎日飲酒する人	27	5.8	32	6.3

* P < .05 ** P < .01

げたごとく、酒をやめられない人と考えているものが54.5%の過半数を占めて第1位で、かなり少なくなって、酒ぐせのわるい人14.5%、社会の落伍者10.0%、精神病9.4%、内臓をわるくした人5.8%、毎日飲酒する人5.8%と続いている。男性と比較をすると、酒をや

らめられない人と答えたものが、有意に多く、精神病と答えたものが少なかった。WHOは、アルコール中毒の定義について、強迫的にアルコールを求める精神依存を重視し、またアルコールを中断すると、禁断症状ないし離脱症状が生ずる身体依存が存在するとしている⁷⁾⁸⁾。すなわち、お富さんの歌ではないが、酒をやめなければならないとわかっていながら、心も体も酒を要求して、やめられない状態がアルコール中毒といえるが、その依存性を重視して最近では、アルコール依存症とよぶことが提唱されている⁷⁾。当県の女性の過半数は、そのような正しい認識の仕方をしているように見える。さらに、当県の女性が、アルコール中毒者に接した機会の有無を調べるために、「見たことがあるか」の問いをしたが、表23

表23 アルコール中毒者をみたことがあるか

	女 性		男 性	
	例 数	%	例 数	%
あ る	169	38.7**	555	58.1
な い	212	48.5**	315	32.9
わからない	56	12.8 *	86	9.0
計	437	100.0	956	100.0

のごとく、あると答えたものが38.7%で、ないと答えたものが48.5%、わからないが12.8%であった。男性と比べ、あると答えたものがやや少ない。見たことのある人達に、その

表24 アル中者を見たときの気持ち

	女 性		男 性	
	例数	%	例 数	%
お そ ろ し い	77	44.0**	125	32.0
か わ い そ う	69	39.4	188	48.1
気 持 ち 悪 い	23	13.2	45	11.5
こ ち ら も 愉 快 に な る	2	1.1	7	1.8
そ の 他	4	2.3*	26	6.6
計	175	100.0	391	100.0

ときの気持ちを問うと、表24のごとく、女性の半数近くの44.0%がおそろしいと感じ、ついで39.4%がかawaiiそう、13.2%が気持ちがわるいであった。嫌悪的感情(おそろしい・気持

わるい)の58.2%は、好意的感情(かawaiiそう・愉快)の40.5%より高かった。ちなみに、男性の場合には、嫌悪的感情の43.5%は、逆に好意的感情の49.9%より低かった。それは男女の生理的な差異か、男性の仲間意識(?)がこのような差となって表われたのかもしれない。

表25 アルコール中毒の治療について

	女 性		男 性	
	例 数	%	例 数	%
積極的治療	331	78.4	340	73.0
本人の意志	65	15.4	74	15.9
家族の意志	19	4.5**	43	9.2
そ の 他	7	1.7	9	1.9

アルコール中毒の治療に関しては、表25に示した通りで、積極的な治療をすべきだと答えたものが78.4%で、本人の意志にまかせるものが15.4%、家族の意志にまかせるべきとしたものが4.5%であった。その順位は、男性とほぼ同じであったが、男性に比べ、家族の意志にまかせるべきと答えたものが、やや少なかったのは、女性自身がその家族の当事者としての遠慮なのか、あるいは当県の女性の家庭内における力の弱さからくるものであろうか(?)。

考 察

冒頭に述べたごとく、わが国における酒と女性とのかかわりは密接なものであった。酒造り職人である杜氏の語源は、女性を意味する刀自に求めることができるし、酒を醸す(か)ということばは、そのむかし女性が口を清潔にすぎ、米を口に含んで噛み噛みして酒を造った事実由来しているといわれる。われわれの主食である貴重なお米からつくられた酒は、わが国では、神聖な、貴いものとして、お神酒として初登場したのであった。天変地異をひき起こす荒ぶる神をなだめるために、お神酒が供えられたが、その意味するところは、神を人間にまでひきつけることであり、神と人間が仲良くすることであった。その祭事

に参加した人々も、ともに相互の相睦びを親しむものであったから、そこには男女の間に差別はなかった。歴史がくだるとともに、相睦びの酒は、互いの結束をはかる酒となり、また主従関係を結ぶ酒となっていた。武士の台頭とともに、酒は次第に男のみのものとなって行った。それと反比例して、女性がおおらかに飲酒することがなくなり、女性は男に酒を饗する役となり、ついに男に酌をする職業婦人まで出現するにいたったのであった。⁹⁾

わが国は、世界のなかでも、飲酒にたいして寛容な社会だといわれる。¹⁰⁾しかし、これは男性にのみ通用するのであって、女性には厳しい歴史をもっていた。すなわち、わが国の特徴は、飲酒にたいして、男女によって異なる二重基準double standardが存在することであろう。¹¹⁾しかし、第二次大戦後、新憲法で男女平等の権利がみとめられた。近年では女性の解放が定着して、従来の規範にとらわれない自由な生き方を求める女性も増えてきた。女性の生き方に関する価値観が多様化した。飲酒にたいする態度にも、その一端がうかがわれる。

上に述べた傾向が、わが国全体で進んでいくなかで、わが富山県には、まだふるい伝統やしきたりが残り、女性の飲酒態度のなかにも、その影響をみる事ができた。

初飲年令をみると、富山県の女性は、17才以下の幼若年令での飲酒体験は、全国平均との間に有意差がないのに、成人式直前の18～19才では急激に増加していることであった。その事実には、二つの重要な意味が含まれているように思われる。すなわち、一つは先に述べたごとく、冠婚葬祭のさかんな土地柄である。わが国では、未成年者の飲酒は法律で禁じられているが、お祝いや行事の際には、未成年者が酒をのんでも大目にみられる風習がある。当県の女性が18～19才で、飲酒の初体験が急激に増しているのは、この冠婚葬祭においてであった。ちなみに、飲酒のきつ

けとして、「お祝・行事」としたものが44.8%であったが、その数字は初飲年令の19才以下の合計43.9%と非常に酷似していた。その両者がほとんど一致していることが想像されよう。

もう一つの意味について述べよう。しかし、そのためには、われわれが先に報告した、一般成人男性²⁾について説明しなければならない。男性の場合には、初飲年令は、15才以下の10.4%および16～17才の10.7%とも、全国平均のそれぞれ3.1%および5.6%と比べると有意に多かった。しかし、成人式直前の、18～19才の31.2%は、全国の25.4%と間に有意差はみとめられなかった。そこには、富山県の男性が、女性に比して、ずっと幼若年令で、酒をのむ許可が与えられているにもかかわらず、女性ではずっと抑制されていて、成人式直前で、やっと解禁されている有様をみる事ができる。全国のデータでは、男女の差がほとんどみられないのである。昭和53年の、NHKによる全国の意識調査によると、「男と女では、全体として、能力に差があると思うか」との問いに、富山県では、男が優れていると答えたものが全体の51.0%をしめし、全国第1位であった。北陸三県が3位まで独占していたが、全国平均の値は39.8%と低く、とくに表日本や東京などの都会では低かった。また、第二次大戦後の離婚率の上昇が、女性の力を示すバロメーターとされてきたが、当県の離婚率は、全国のなかの第40位という下位にあり、このことから女性と男性の力の差は歴然としているようにみえる。われわれのころのふるさと立山は、そのむかし、女性をけがらわしいものとしてその入山をかたくなに禁じてきた。現在、男女ともどもに、嬉々として登山を楽しんでいるかにみえるが、私どもの心の奥底には、まだかつてのような男尊女卑のところがまだ深く潜んでいるのではなかろうか。

つぎに、飲酒頻度については、当県の女性は、「ほとんど飲まない」から「週4～6日飲

む」群まで、全国平均より有意に高く、また「飲まない」群の21.9%は、全国平均の52.7%よりいちじるしく低かった。しかし、「毎日飲む」群は、全国平均との間に有意差はみられなかった。すなわち、上のことから、富山県の女性は、全国よりも飲酒人口が多く、しかも非飲酒者は少ないといえる。しかし、毎日飲酒するような女性酒豪が多いわけではないということもいえた。さきに、われわれが報告した一般男性²⁾と比較すると、富山県の男性では、「毎日飲む」および「週4～6日飲む」群は、それぞれ40.7%および14.0%で、全国平均のそれぞれ30.4%および11.7%よりも有意に高かった。一方、当県男性の「週1～3日飲む」群の22.5%は、全国の26.9%より有意に低かった。また、「飲まない」群の3.0%も全国の7.7%よりも、有意に低かった。すなわち、当県の男性は、全国と比較して、かなり飲酒頻度が高かったが、その影響を受けて、女性の飲酒頻度も高くなっていることがわかる。いわゆる夫唱婦隨の形をとっているようにみえる。いずれにしても、当県が酒に親和性のある県であることをしめしていよう。

女性の飲酒の理由は、多い順から、つきあい、たのしむ、つかれなおしの順であったが、つきあいが全国よりも有意に高いことは、当県のつきあいを大事にする風習が、飲酒態度の上にもあらわれているということができよう。ちなみに、男性の場合も、つきあいの21.5%という値は、全国平均の15.4%よりも有意に高かった。一方、当県女性の、つかれなおしのための飲酒は、全国より低いのが、それは、当県になお男尊女卑の名残りが潜在的に存在しているといえないであろうか。当県の持家率は全国第1位といわれている。それは建物としての「家」ばかりでなく、歴史的・人間関係的・社会関係的な要素を含む「いえ」を意味している。その家の中では、富山の女性達は、家長や、舅姑や、小姑や、ときには自分の息子達にまでも、気をつかいながら、せつ

せと働きづくめであった。その家は、女性にとって、ここからの安楽な場所とは決していえなかった。男のように、つかれなおしに一ぱいのめるような状況ではなかった。その名残りが、上の数字に残っているような気がする。一方、当県の男性の場合は、つかれなおしが33.3%、たのしむ27.7%、つきあい21.5%の順であり、このたのしむとつきあいは、全国より有意に高かった。富山県の男性は、当県の美風であるつきあいという大義名分に名をかりて、思う存分飲酒を楽しんでいる風でもある。まさに男性天国といえるであろう。

女性の飲酒場所は、自宅とのみやが、全国と比較して、有意に高かった。こののみやが高いことが、当県の男性と異なっていた。当県の男性ののみやでの飲酒率19.7%は、全国の27.8%より有意に低かった。女性ののみやでの飲料率の高いことは、先程述べた「いえ」の中で、つかれなおしに一ぱい飲めないために、つきあいという形でのみやで気晴らしをしているのであろうか。一方、男達は、居心地のよいわが家で、妻に酌をされながら、ゆったりと晩酌を楽しんでいる姿が目につく。男女とも、友人宅での飲酒が低いのは、当県の特徴で、他人宅に迷惑になるのではないかと気をまわす律義な県民性がうかがい知れる。

飲酒量については、全国との間に有意差がなく、当県の女性は、飲酒頻度のみ高いが、量については低く抑えられていることがわかった。富山県の男性が、飲酒頻度も飲酒量ともに全国平均より高いのにひきかえ、ここにも男尊女卑(?)の傾向がみられた。

このようなつましやかな飲酒態度の富山女性は、酒の上の失敗も少なく、全国平均並みであったが、それに反して当県の男性は、他人に迷惑をかけたことがあることと仕事上の失敗が全国平均より高かった。その理由は、男性の飲酒量が全国より高いということの他に、当県の男性が律義で内省的傾向をもち、迷惑や失敗をつよく意識する傾向があること

を別に述べた²⁾。一方、当県の女性は、つましいなかにも、男性よりむしろおおらかで、しっかりもので、はっきりしたところもあるようである。酒席への出席の態度にみられたように、さけるよりもことわるが全国よりも高いことが、その一面をあらわしている。

これまで、富山県女性のつましい飲酒像について説明してきたが、職業別による飲酒態度のデータから、別のある問題を示唆しているように見える。先にも述べたごとく、飲酒にたいする男女の二重基準が存在するわが国では、これまで女性が酒をのむことには勇気が必要であった。すなわち「女らしさ」という世間の目に見えない規範に反旗をひるがえし、それを乗り越える勇気がなければならなかった。以前の女性の飲酒者は、水商売の女性か、特殊な年配の女酒豪といわれる一部のものに限られていた。ところが近年の女性飲酒の一般化から、女性アルコール中毒の危険性も現われてきたといわれる⁷⁾。

われわれの調査では、飲酒者率の高い職種は、日雇労働者や勤務労働者、農林業従事者などの肉体的ないし精神的労働に従事するものであった。しかしそれらの多くのものは、機会飲酒であって、常習的に飲酒する高頻度飲酒者は少なかった。ところが、特筆すべきは、飲酒者率の低かった自営業や自由業の方が、むしろ高頻度飲酒者が多い事実であった。勤務労働者などは、労働による一時的なつかれなおしや、あるいは仲間のつきあいなどによる飲酒、つまり機会飲酒が多いといわれている¹²⁾¹³⁾。一方、自営業や自由業などの、自由な時間と経済的なゆとりが、飲酒頻度を増し、高頻度や常用飲酒への傾向をしめしているといえよう。主婦を含む無職のグループも、比較的自由な時間が多く、飲酒頻度の高いものも多い。最近、主婦のアルコール中毒者が問題になっているが、夫や子どもを送り出したあと、自由になった主婦が一人で飲酒を楽しむキッチン・ドリンカーがそれである⁷⁾。われわれの調査結

果も、それらの事情をある程度示唆しているようにみえるので、警告を発しておきたい。

ま と め

1. 富山県女性の初飲年齢は、18～21才に集中しているが、とくに成人式直前の18～19才が全国と比べて有意に高い。
2. 飲酒のきっかけは、お祝・行事が第1位で、つきあいが第2位であったが、全国とは逆転していた。
3. なんらかの形の飲酒者は78.1%にみられたが、その値は全国の47.3%よりはるかに高い。
4. 毎日飲酒者率は全国との間に差はなく、週6日以下～ほとんど飲まないまでの飲酒群がなべて全国より高かった。
5. 飲酒理由は、つきあいが第1位で、全国より有意に高い。一方、心身の不健全さをしめす飲酒態度は全国より低かった。
6. 酒席へ出席する率76.3%は、全国の70.2%より高く、出席しない場合には、全国と比べ、さけるよりはことわる傾向がみられた。
7. 酒が人生に必要と考えているものは82.5%で、これは全国の56.1%よりはるかに高い。
8. 当県は、酒と親和性のある文化圏に属しているが、男性の多飲酒傾向に比べ、女性の飲酒は比較的つましく、健全であるといえる。
9. しかし、自由な時間と経済的なゆとりのあるある職種に飲酒頻度の比較的高い傾向がみられた。

なお、この論文の要旨は、第92回北陸精神神経学会(1982)において発表した。また、この研究には、富山県医師会の研究助成を受けたことを記して、感謝の意を表します。

文 献

- 1) 草野 亮, 柴 美喜子, 中川秀幸: 富山県の飲酒を考える, 富山県農村医学会誌, 13: 52~62, 1980。
- 2) 草野 亮, 中川秀幸: 富山県民の飲酒実態調査—一般成人男性の場合—, とやま県医報 No848: 12~18, 1983。
- 3) 額田 榮: 飲酒による健康障害の社会医学的考察, 臨床栄養, 40: 270~274, 1972。
- 4) 額田 榮: アルコール中毒の疫学, 加藤伸勝・大原健士郎・河野裕明編: アルコール中毒, 18~44, 医学書院, 1973。
- 5) 西川湊八, 額田 榮, 上野佐編: 日本の飲酒を考える, 医学書院, 1975。
- 6) 比嘉千賀: 女性のアルコール依存症, 臨床精神医学, 10: 37~46, 1981。
- 7) 斉藤 学, 柳田知司, 島田一男編: アルコール依存症, 有斐閣選書, 1979。
- 8) 草野 亮: アルコール症, 富山県医師会編: 健康教育カリキュラム第V部, 247~268, 1980。
- 9) 和歌森太郎: 酒が語る日本史, 河出書房, 1972。
- 10) 大橋 薫編: アルコール依存の社会病理, 星和書店, 1980。
- 11) 波田あい子: 女性とアルコール依存, 大橋 薫編: アルコール依存の社会病理, 129~153, 星和書店, 1980。
- 12) 柴田洋子: 働く女性と飲酒, アルコール研究と薬物依存, 17: 17~18, 1982。
- 13) 草野 亮, 吉本博昭, 山野俊一: 女性教師の飲酒状況について, アルコール研究と薬物依存, 17(Sup.): 191~192, 1982。

(資料) 飲酒の実態調査に関するアンケート

【記入上の注意事項】 該当するものに○又は番号をつけてください。

問1 下記該当するものの数字に○をつけてください。

性別年齢	1 男	2 女	オ	職業	1 勤務労働者(事務, 営業, 生産, 運輸, その他())			
結婚	1 未婚	2 既婚	3 離婚	2 農林業	3 漁業	4 自営業	5 日雇労働者	
子供	1 いる	2 いない		6 自由業	7 無職	8 その他()		
学歴	1 大学卒	2 高校卒	3 中学卒	4 その他()	居住地	1 農村部	2 山間部	3 漁村部
					分類	4 住宅地	5 商店街	6 工場街

問2 お酒(ビール, ウイスキー等を含む)を飲まれますか?

ア. 毎日飲む イ. 週4回以上 ウ. 週1~3回 エ. ほとんど飲まない オ. 以前飲んだがやめた カ. 飲まない

問3 次のどれを主に飲まれますか。順位をつけてください。

ア. 清酒() イ. ビール() ウ. ウイスキー() エ. 焼酎() オ. その他()

問4 1回に飲む量はどの位ですか。(清酒に換算してください)

(1)宴会で ア. 1合以下 イ. 1~2合 ウ. 2~3合 エ. 3~4合 オ. 4~5合 カ. 5合以上 キ. その他

(2)晩酌で ア. 1合以下 イ. 1~2合 ウ. 2~3合 エ. 3~4合 オ. 4~5合 カ. 5合以上 キ. その他

問5 初めてお酒を飲んだのは何歳ですか。 オ

問6 その時の飲酒のきっかけは何ですか。

ア. つき合い イ. 行事, お祝 ウ. 何となく エ. 仕事上 オ. 一人前になったので カ. 親のすすめ

キ. 仕事がうまくいったので ク. やけになった ケ. その他

問7 現在, 飲酒する理由は何ですか。

ア. つかれをなおす イ. たのしみ ウ. つき合い エ. よくねむるため オ. 食欲をます

カ. 元気をだす キ. 苦痛をやわらげる ク. その他

問8 主にどのような場所で飲まれますか。

ア. 自宅() イ. 友人宅() ウ. のみや() エ. バー() オ. その他()

問9 酒を飲んで失敗したことがありますか。

ア. 交通事故 イ. 仕事上のミス ウ. 他人にめいわくをかけた エ. 怪我をした

オ. ケンカをした カ. その他

問10 次のような経験がありますか。

ア. 飲んでほならないときに断れない イ. 宴会で飲む量を加減できない

ウ. 飲む量を減らそうとしたことがある エ. 断酒しようとした

問11 酒席に出席しますか。

ア. 必ず出席 イ. 普通に出席 ウ. さける エ. 断わる オ. 機会がなかった

問12 酒は人生に必要だと思いますか。

ア. 必要 イ. 時に必要 ウ. 不必要 エ. わからない

問13 現在の健康状態はいかがですか。

ア. 非常によい イ. 大体よい ウ. 普通 エ. 多少わるい オ. 非常にわるい カ. 医師にかかっている

問14 アルコール中毒者とは次のどれをさすと思いますか。

ア. 精神病 イ. 社会の落伍者 ウ. 内臓をわるくした人 エ. 酒ぐせのわるい人

オ. 酒をやめられない人 カ. 毎日飲酒する人

問15 アルコール中毒者をみたことがありますか。

ア. ある イ. ない ウ. わからない

問16 アルコール中毒者をみたときどのような気持ちになりましたか。

ア. 気持ちがわるい イ. おそろしい ウ. かわいそう エ. こころも愉快になる オ. その他

問17 アルコール中毒者の治療についてどう思いますか。

ア. 積極的な治療すべき イ. 家族の意志にまかせる ウ. 本人の意志にまかせる エ. 放任すればよい オ. その他